

【 第57回 平成23年度 社団法人長野県針灸師会
信州大学医学部学術講習会に参加して 】

優秀な講師の先生方、それに充実した講義と解剖実習、毎年楽しみにしています。そして今年も行って参りました。

第1講は、『骨の痛みのメカニズム』という演題で、信州大学医学部麻酔蘇生学講座 准教授 川股和之先生が講義をされました。骨にも感覚神経があるという事は知っていたのですが、「骨の中の髄液の中にまで神経線維が伸びている。」というお話に、新たな発見をした思いでした。

第2講は、テレビ番組 たけしの健康エンターテイメント！、みんなの家庭の医学 1月4日放送の『今年こそメタボ脱出！。家庭でできる体質改善ズボラでも大丈夫スペシャル』に出演されていた信州大学医学部器官制御生理学講座教授、日本リンパ学会理事長 大橋俊夫先生の貴重な特別講演でした。『皮膚の微小、リンパ循環学研究の最近のトピックス』と題して、健康人の浮腫のメカニズム、浮腫の改善方法から、毛細リンパ管の三次元構造、免疫学にまで及ぶ詳しい講義をしていただきました。

午後からの第3講では、信州大学医学部人体構造学教授 森泉哲次先生が、「人間が四足歩行から二本足歩行になったことにより、推進力を得るパワフルな足になった。」という成り立ち、そして、骨格から繋がりのある腱・筋肉の走行と、動作一連の構造的な生理学的話まで、コレマタ「なるほどそうだったのかと!!。」と、納得のいくお話しでした。例えば、母指に繋がる長母趾屈筋起始は外側にある小指側腓骨から母趾の末節骨底の背面に付着し、長趾屈筋の起始は母指側である内側の脛骨後面から第二～第五の趾骨の末節骨底に付着している。その為、母指だけとか四指だけの屈曲は出来ず、個別なのに同一に働き、その事により母指の筋力をより強化している、と言う事など、とてもよく理解出来ました。他にも納得する事が盛り沢山でした。

最後の第4講は、『下肢の筋・関節』の解剖実習でした。前述の森泉教授と帝京平成大学 ヒューマンケア学部(信州大学医学部非常勤講師)掛川晃先生が、各部位について丁寧に説明をされ、理解もしやすく、とても勉強になりました。帰宅後も透視メガネでも掛けているようなそんな能力を授かった気分です。

例えば、膝の関節水腫については、縦割リスライスした解剖見本により、膝関節の関節水腫では何処まで袋が延びているか、そして、注射針で吸い出すのに適している位置がココだとか、朝一番に歩く時に発症する足底の痛みについて、その痛む場所にどういう異常が生じているのか等、臨床の場で即座に使える内容で、とても嬉しかったです。

今年も、こんな素晴らしい実のある一日を下さった長野県針灸師会今村和久会長
ならびに井出勇次学術部長各位に感謝しています。勿論、本愛知県鍼灸専門師会
長谷川栄一会長のお力のお陰で愛知より参加させて頂きました事をご報告致
します。

愛知県鍼灸専門師会 会員 久野稔夫 (東海市)